

競技注意事項

※ 参加者多数のため、要項への記載時刻より20分早めて開始いたします。

1 本大会は、2022年度日本陸上競技連盟競技規則、及び本大会の申し合わせ事項によって実施する。

児童（小学生）である年齢を考慮した教育的配慮の元に競技を進行する。そのため、競技者の衣類（※ユニフォームを除く）・バッグ等の広告規程、及び2020年度のシューズ規程に関する改定ルール（TR5.2・競技用靴）については適用外とする。

※ 競技者のユニフォームの商標等については、日本陸連の国内規則をそのまま適用するのではなく、主に製造会社名／ロゴ等が過度に大きい場合（例：上着に大きなロゴ）にのみ対応をお願いすることを想定している。

- (1) 1000m、800mを除く種目は、オールウェザー用のスパイクシューズ（ピンの長さ9mm以内、本数11本以内）を使用してもよい。
- (2) 全天候舗装走路では火傷の危険があるので、素足での競技は禁止する。
- (3) スタートは、原則クラウチングスタートとし、スターティングブロックを使用してもよい。ただし、小学3・4年生は、スタンディングスタートを認める。
- (4) スターターは、英語で「On your marks : オン・ユア・マークス」（意味：位置について）「Set : セット」（意味：用意※1000m、800mではなし）と合図する。その際、同じ競技者が2回の不正スタートをした場合、その競技者を失格とする。
- (5) リレー競技におけるテイク・オーバー・ゾーンは、3.0mとする。テイク・オーバー・ゾーン外から走り出してはならず、ゾーンの中でスタートしなければならない。走者が2つ以上のテープなどのマークをつけることは禁止する。また、リレーチームのメンバーの上着のユニフォームは統一したものでなくてはならない。ただし、男女による型の違いは認めるものとする。

※ 出場のチームは、当日の受付時に配付する「リレー・オーダー用紙」に記入の上、招集完了時刻の1時間前までに競技者係（招集所）に提出すること。一度申告したらその後の変更は、招集完了時刻までに山形陸協が任命した医務員の判断がない限り認められない（R24.11）。
- (6) 80mHは、ハードルの高さ70cm、ハードル間7m、ハードルの台数9台、スタートから第1ハードルまで13m、最終ハードルからゴールまで11mとする。
- (7) 走幅跳・ジャベリックボール投は、一人3回の試技とし、トップ8は行わない。
- (8) 走高跳の跳躍方法は、はさみ跳びとし、マットへは足裏からの着地を原則とする。背、腰等から落下した場合は無効試技とする。走高跳の最初の試技の高さは、女子は105cm、単独の男子は110cmとし、以降5cmずつバーを上げ、女子は125cm、男子は130cmになったら3cm刻みにバーを上げる。3回続けて失敗した場合は試技終了となる。
- (9) ジャベリックボール投は、山形陸協で準備したジャベリックボールを使用し、助走距離は15m以内とする（やり投げのピットを使用する）。投げ方は、ボール本体を持ち、オーバーハンドで投げることにする。羽だけを持って投げることは禁止する。
- (10) アスリートビブス（ナンバーカード）は山形陸協で準備し、当日、受付で配付する。
- (11) 招集所は、北側バックスタンドの裏側（掲揚台の北側）に設置する。招集に遅れたものは当該種目に出場できない。招集開始時刻には点呼を開始する。

2 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

【本大会は、有観客で実施いたします】

山形県民スポーツフェスティバル実行委員会策定の

「第30回山形県民スポーツフェスティバルにおける新型コロナウイルス感染症拡大防止に関するガイドライン」

を遵守し、運営を行います。

- (1) サブグラウンド（ウォーミングアップ場）への入退場は、受付時に提出した名簿に記載の競技者と指導者（人数制限なし）のみとする。
- (2) スタンドへの入退場は、競技者や指導者（黄色のリストバンド着用）に加えて、当日に「チェックシート（観戦者用）」を提出した観戦者（観客・黄緑色のリストバンド着用）のみとする。
- (3) 不織布マスク着用などの遵守事項は、別紙「第30回山形県民スポーツフェスティバルにおける新型コロナウイルス感染症拡大防止に関するガイドライン」を確認すること。

3 ウォーミングアップ・練習について

練習は、各個人及び指導者の責任のもと、ウォームアップ場係の指示により行い、事故防止には注意を払うこと。なお、練習中に発生した疾病・傷害等については、応急処置は山形陸協において行うが、以後の責任は負わない。なお、屋内走路は原則として開放しない（感染症対策のため）。

4 招集について

- (1) 招集所は、バックスタンドの北側の裏（掲揚台の北側）に設置する。
- (2) 招集開始時刻・招集完了時刻は、プログラム記載の競技日程のとおりとする。招集完了時刻に遅れた競技者は、原則、当該競技種目を欠場したものとする。

	種別		招集開始	招集完了
トラック競技	予選	1～3組	35分前	20分前
		4組～	20分前	5分前
	決勝（決勝リレーを含む）		30分前	15分前
フィールド競技	決勝		45分前	30分前

5 アスリートビブス（ビブス）について

- (1) アスリートビブス（ナンバーカード）は山形陸協が2枚配付する。競技者は、競技中、胸と背にはっきり見えるように2枚のアスリートビブス（ナンバーカード）をつけなければならない。
- (2) トラック競技に出場する競技者は、腰ナンバー標識（招集所で配付）をショーツまたは下半身の右後方につける。4×100mリレーでは、最終走者は配付された腰ナンバー標識をつける。

6 競技場内への入退場について

- (1) 競技場内への入退場は、Aゲートと、バックスタンドの北側の招集所入口の2か所とする。
- (2) 競技終了後は、競技役員の指示に従い、最寄りの階段やスロープから観客スタンドに退場する。なお、衣類搬送は行わないため、スタート地点に戻る際は、60m・100m・80mHは屋内走路を通ること。また、1000mは第1曲走路部分をスタンド壁面に沿って戻ること。

7 抗議について

競技の結果または競技実施に関する抗議は、その種目の結果の正式発表後30分以内に行わなければならない。ただし、いかなる抗議も、競技者自身または監督から審判長に対して口頭で行うこととする。

8 表彰について

- ・ 個人種目：6位までの入賞者には賞状、優勝者にはメダルを授与する。
- ・ 男女別リレー：6位までの入賞チームには、個人用賞状5枚・チーム用賞状1枚、優勝チームには、個人用メダルを5個授与する。
- ・ 男女混合リレー：6位までの入賞チームには、個人用賞状6枚・チーム用賞状1枚、優勝チームには、個人用メダルを6個授与する。

※ 複数の種目に出場する競技者が多く、競技時間中に入賞者・チームが集まるのが困難だと想定される上に、競技場の利用終了時刻が17時まで制限されているため、大変申し訳ありませんが、競技時間中や競技終了後に表彰式を執り行うことができません。そのため、6位までの入賞者・チームは、順位確定後より30分経過以降、会議室1・2（受付会場）に取りに来てください。その際、個人毎に取りに来ていただいても、代表者がまとめて取りに来ていただいても、どちらでも構いません。

9 個人情報の取り扱いについて

山形陸協は、個人情報保護に関する法律および関連法令等を遵守して個人情報を取り扱う。なお、取得した個人情報は、大会の資格審査、プログラム編成及び作成、記録発表、ホームページ、その他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。

10 その他

- (1) 応援幕・のぼりはサイド及びバックスタンド最上部に張ること。なお、メインスタンドにはテントやタープは、一切張ることができないため、注意すること。
- (2) 走幅跳での本部席上のスタンド（コーンで示す）からの助言は、運営の妨げになるため止めること。また、競技者への助言は、運営の妨げにならないように配慮すること。さらに、競技者に触れたり、審判長の許可なく物を渡したりする行為は禁止とする。

<競技会運営留意事項>

○ 事故防止及び競技者はじめ関係者の安全を期すためのテント設営の際の取扱い基準について

- (1) テント設営にあたっては、地面とテントの支柱をロープと杭等により固定すること又は支柱にバランス良くテントウエイト（オモシ：土砂などを入れた袋等（10～30kg程度）を支柱にくくりつけるなど）を取付けること。
- (2) 風速3m/秒以上になった時又は3m/秒以下でも軽い突風、つむじ風などが発生した時は、アナウンスによる注意及び指示に従って安全対策の実施状況を点検し、上記の基準（1）を徹底することまた、危険と思われる突風、つむじ風などが発生した時は、テントをたたみ飛ばされないようにすること。
- 3) 倒壊及び人身事故があった場合は直ちに状況を確認のうえ大会総務に口頭で報告するとともに、ケガ人等の程度を見て必要に応じ救急車を要請すること。

○ 災害・事故発生に対する措置について

- (1) 怪我の対応について
 - ・ 救護役員（医師）による応急手当を行う。
 - ・ 山形陸上競技協会派遣医師による手当てを行う。
 - ・ 近隣病院へ搬送する。この場合は、引率者または保護者対応とする。
- (2) 災害への対応
 - ・ 利用施設の災害対応マニュアルにしたがい避難・対応する。
 - ・ スタジアム職員、競技役員の指示に従い避難する。
 - ・ スタジアムは基本的に耐震設計されているので安全である。揺れが収まるまで上や近くの備品が倒れてくることを警戒しながら安全なところにとどまる。
 - ・ 競技続行の判断は、審判長、総務で協議の上行い、放送により通知する。